

2016年3月1日開催
地域材住宅の今後を考えるシンポジウム

地域工務店における 木材利用実態調査報告

2016年8月5日 青和会研修会

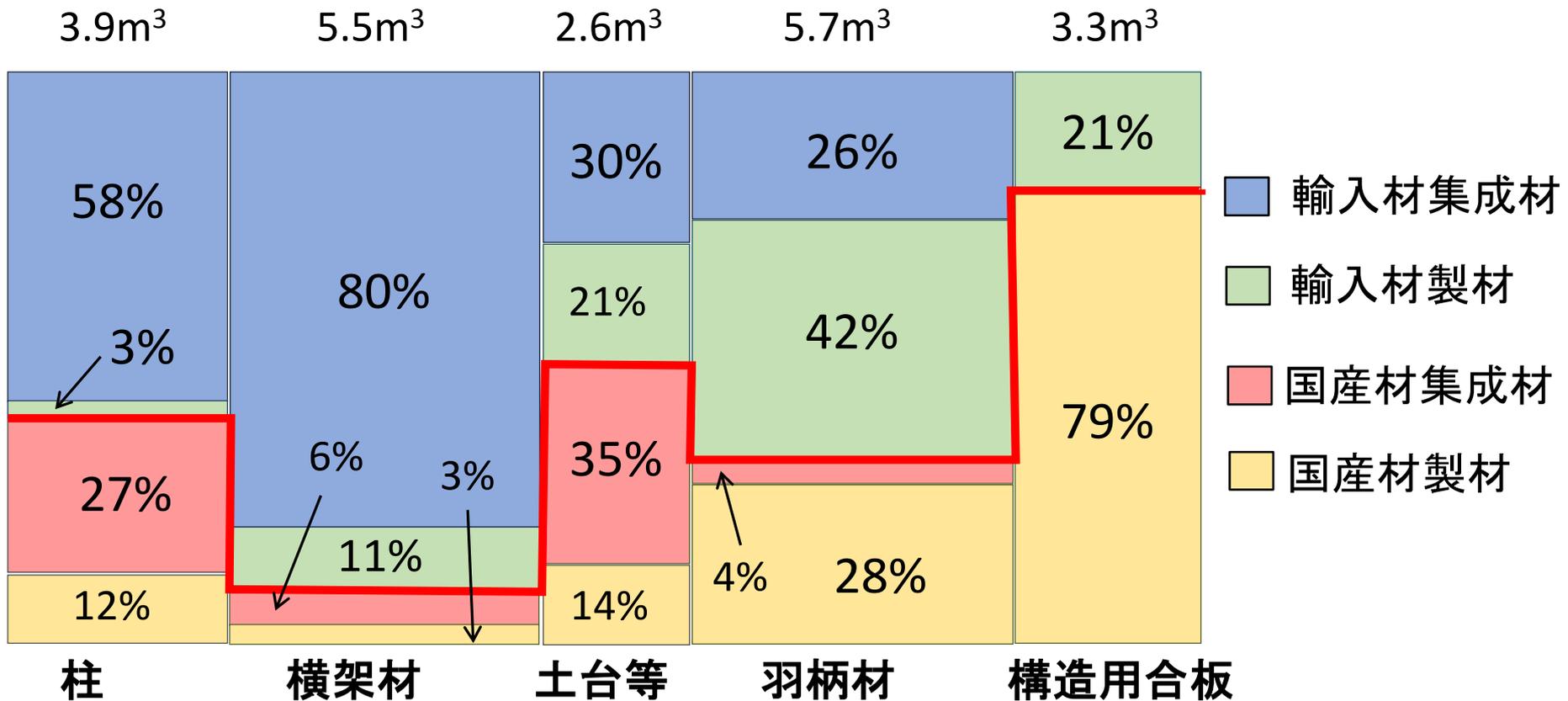
林経協青年部 副会長
JBN・全国工務店協会 国産材委員長
(株)山長商店 榎本 崇秀

本調査のきっかけ

- 林野庁の某幹部さんとの意見交換
- A材対策をどのように進めるか
- H27予算「新たな木材需要創出総合プロジェクト事業のうち 地域材利用促進のうち木づかい協力業者による木材利用の促進」
- JBN(全国工務店協会)から林経協まで、川上・川下団体をとりまとめて応募することを提案頂く

本調査の目的

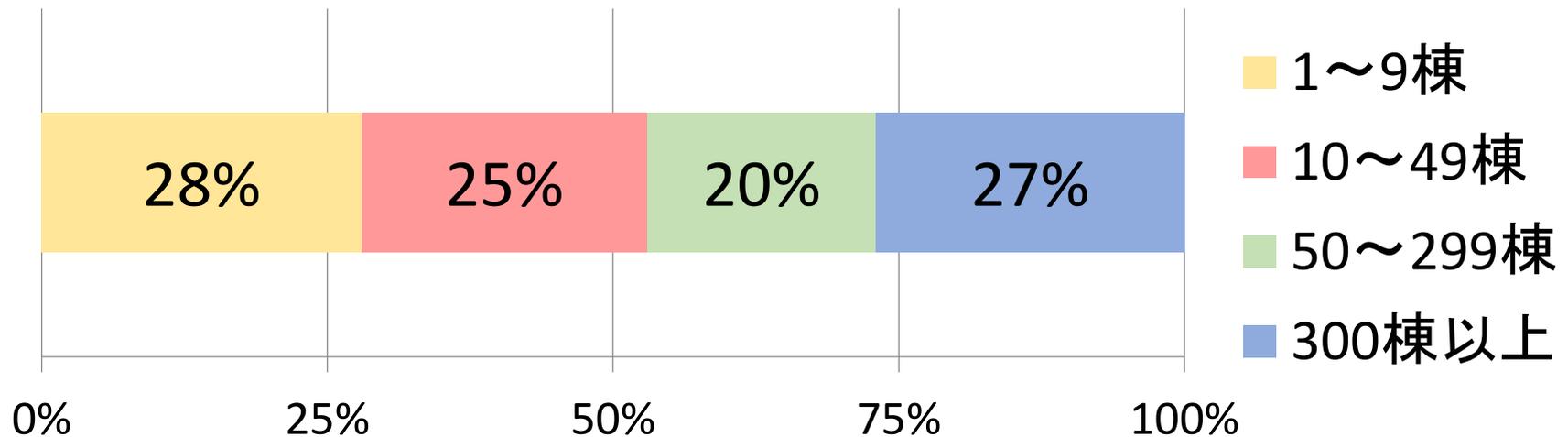
住宅分野における木材の利用状況は、大手・中堅住宅会社や、一部県での調査に限られていた



【出典：H26年度森林・林業白書／日本木造住宅産業協会（2013）】

本調査の目的

在来工法(戸建)では50棟／年未満の工務店等でシェア6割弱を占める



出典:国土交通省ホームページ「木造住宅の担い手の現状」

そのような地域工務店を対象にした木材利用実態調査を通して、国産ムク材の利用拡大のための課題を検討する

2016年3月1日 開催

地域材住宅の今後を考えるシンポジウム

プログラム (予定)

13:00 主催者、来賓挨拶

13:10 地域工務店における木材利用実態調査報告

13:40 事例発表「我が社の国産材利用への取り組みと課題」

発表者 高見林業様、協和木材様、ハイビック様、小林創建様

15:10 パネルディスカッション

コーディネーター：古田 裕三先生（京都府立大学大学院 教授）

パネラー：小島 孝文様（林野庁 木材産業課長）

：田邊 喜範様（JBN・全国工務店協会）

：島田 直政様（日本木材青壮年団体連合会）

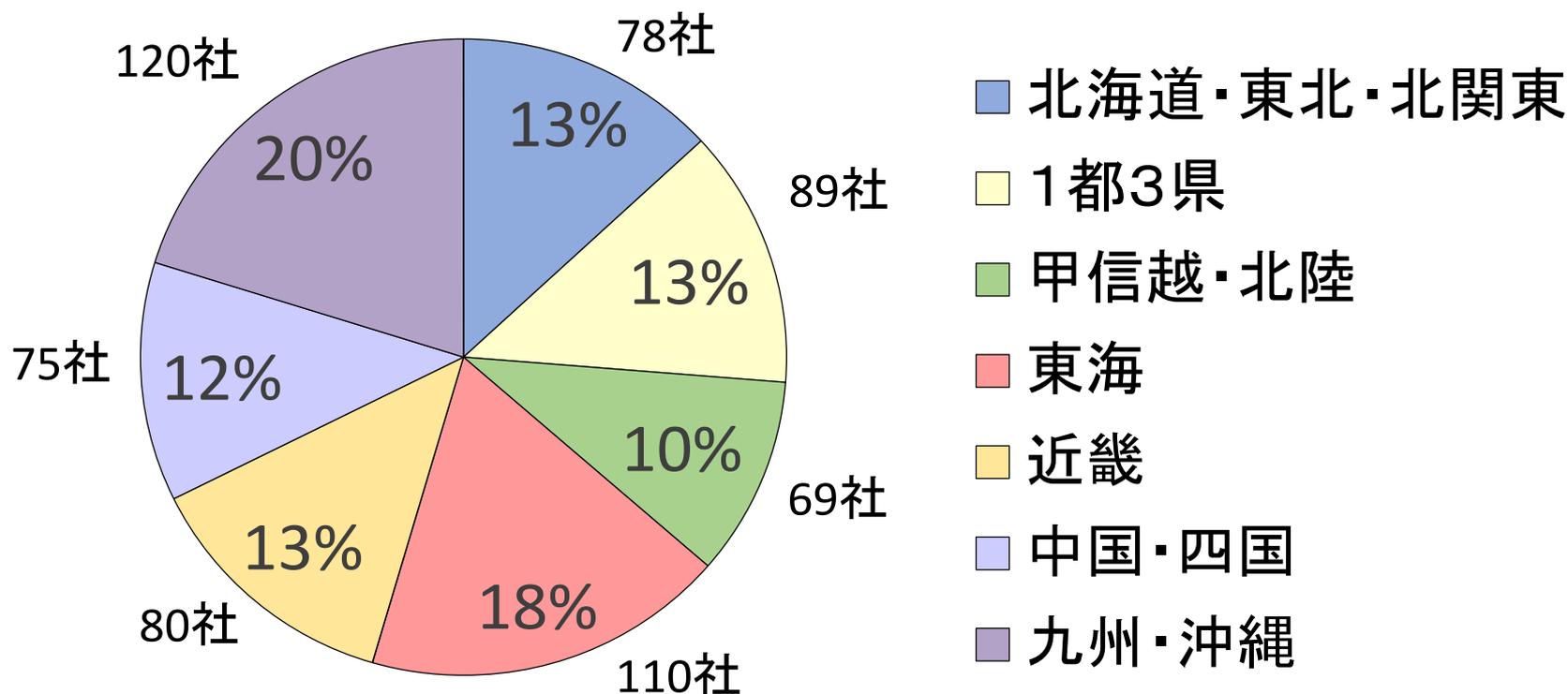
：榎本 崇秀様（日本林業経営者協会青年部・国産材製材協会）

16:30 終了

*事例発表者、パネルディスカッション登壇者は調整中の為、変更となる場合があります。

調査対象の概要（地域別回答分布）

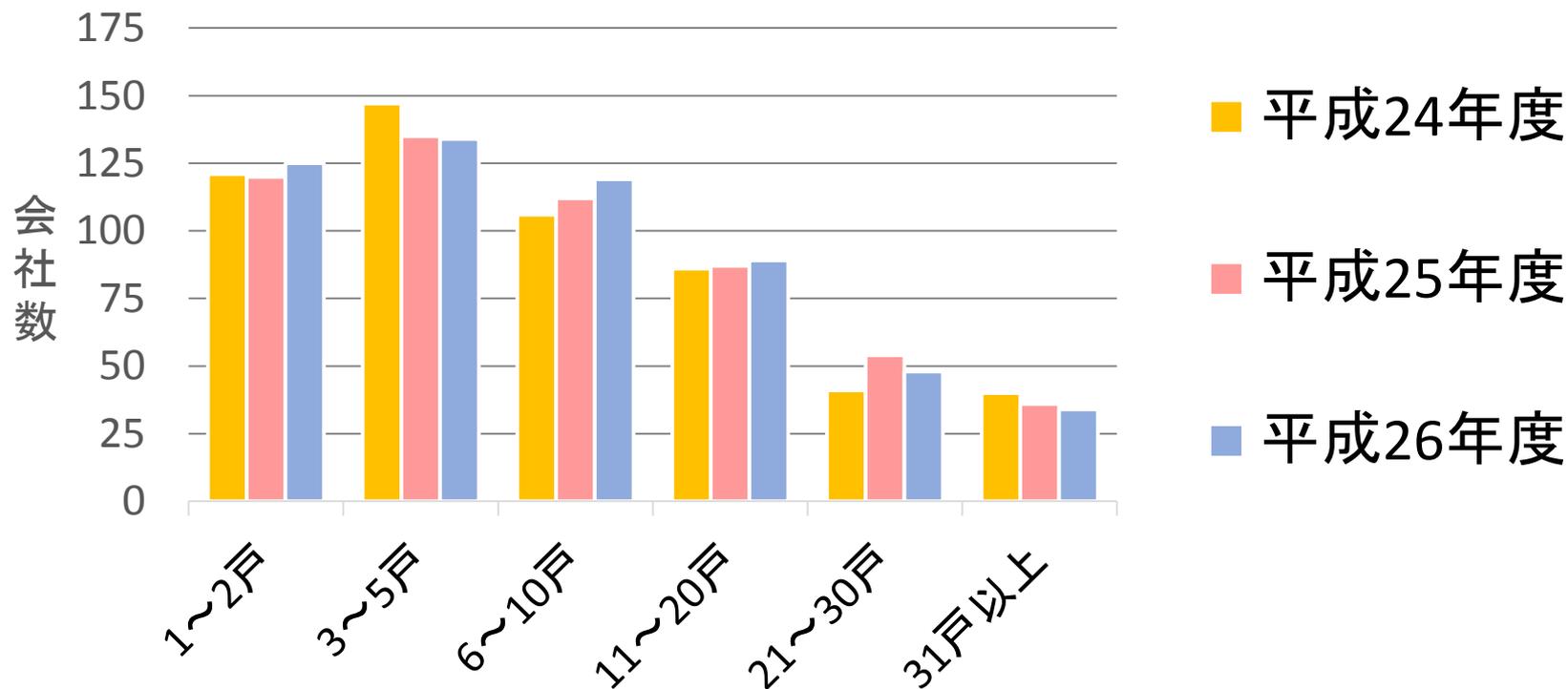
JBNと木青連会員2933社にアンケートを送付
うち621社より回答。回答率は21.2%



地域別回答数分布

調査対象の概要（建築実績）

建築実績が年間1～10戸の会社が69%
1～20戸の会社で85%を占める

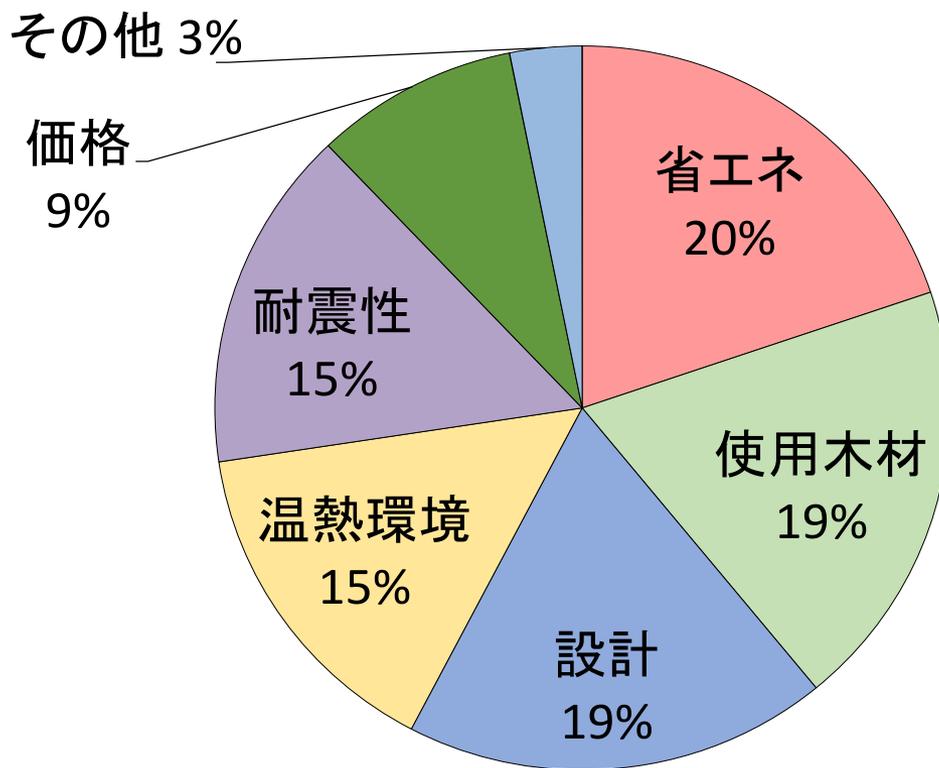


過去三年間の建築実績

供給する木造住宅のセールスポイント

「省エネ」「使用木材」「設計」がほぼ同数
「価格」を挙げた工務店は9%のみ

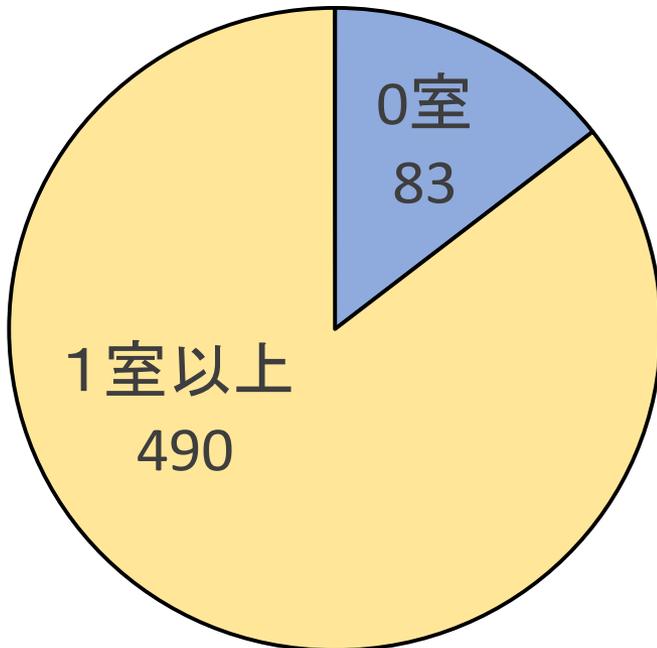
供給する木造住宅のセールスポイント
(複数回答可)



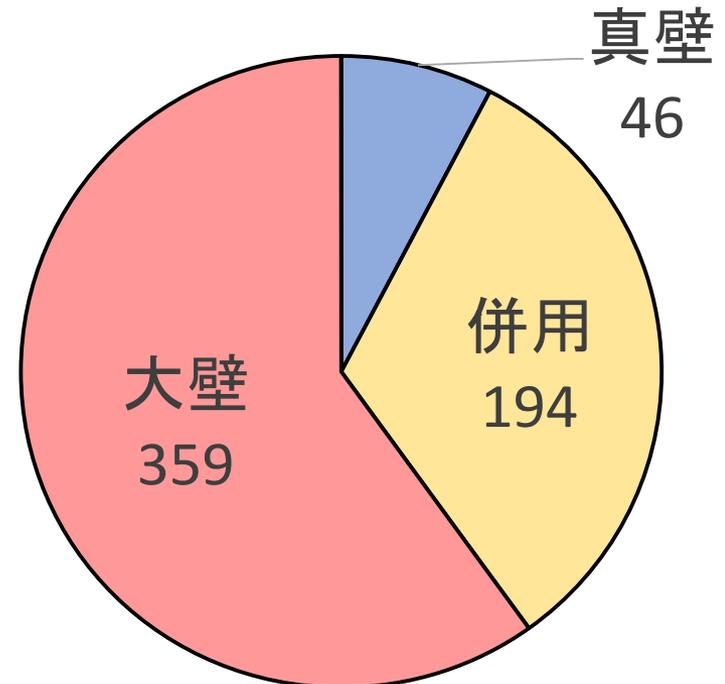
和室の有無と壁形式の関係

1室以上和室を設ける工務店は490社
しかし壁形式は「真壁」と「併用」を合わせて240社
大壁和室が半数を超えている

和室の数(社数)



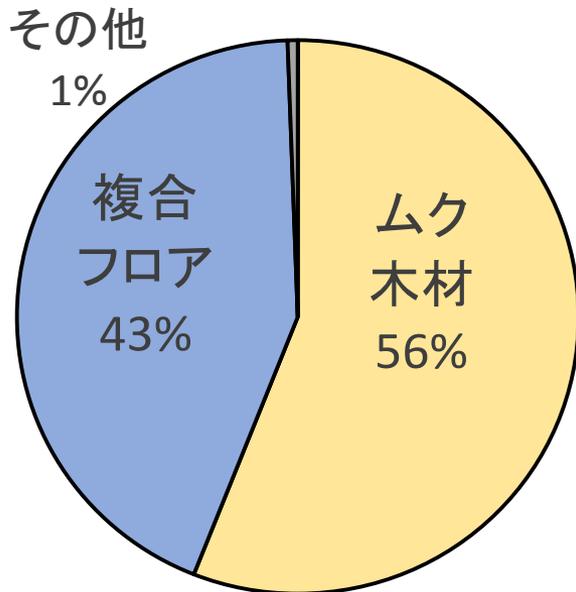
壁の形式(社数)



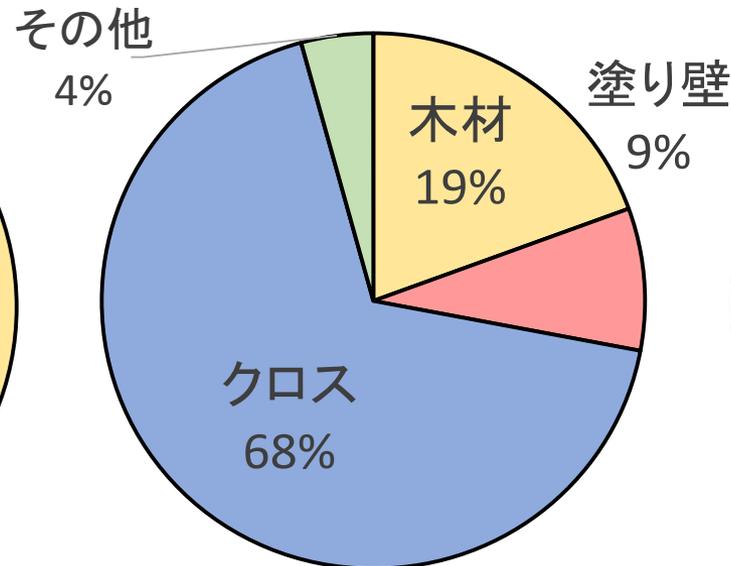
室内の仕上げ材

床については半数以上がムクの木材を使用
天井は木材、内壁は塗り壁が最も使われている

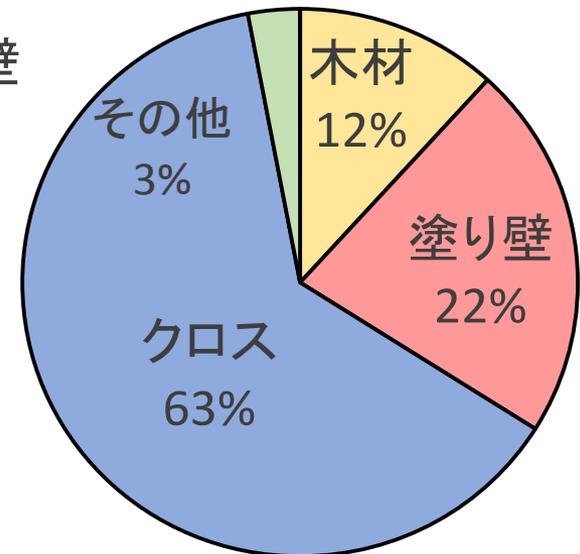
洋間の床仕上げ



洋間の天井仕上げ

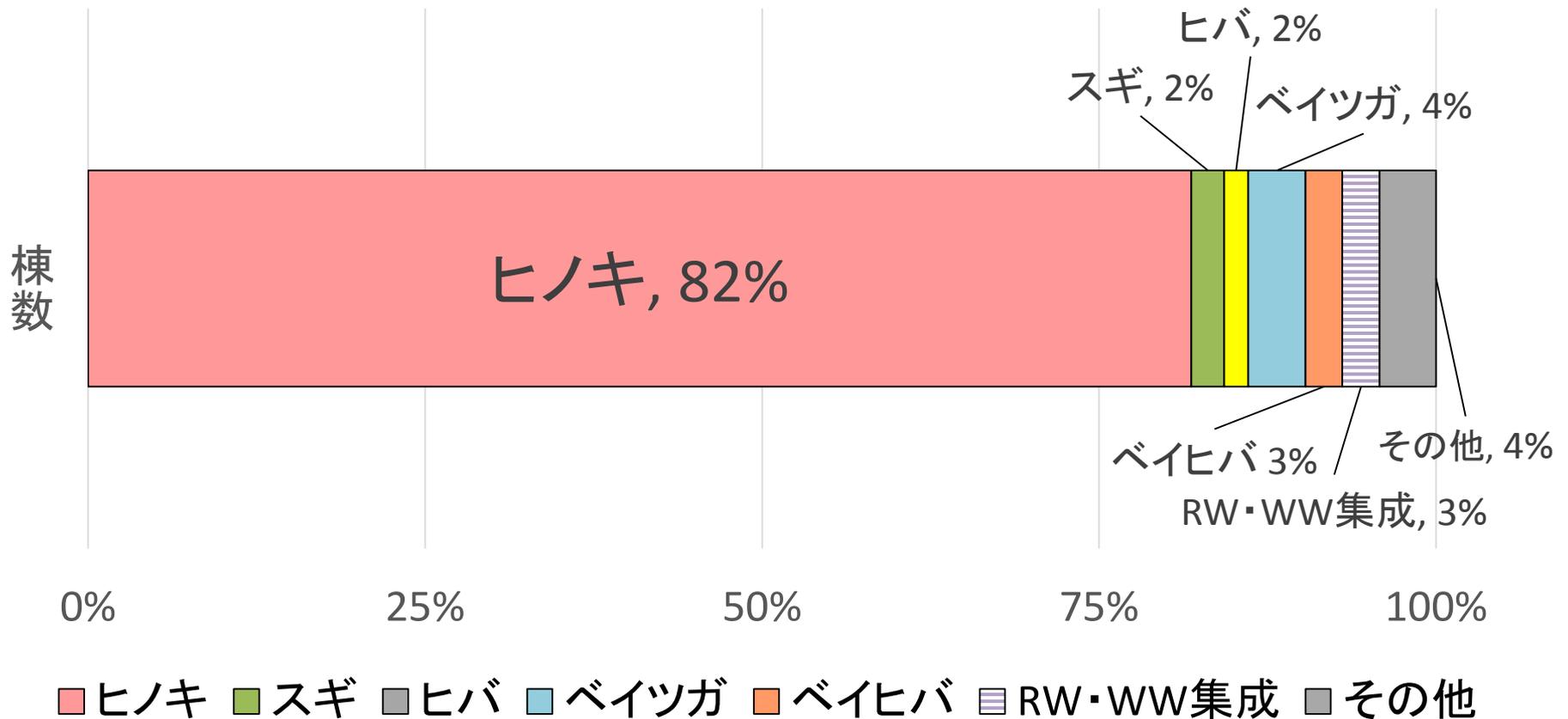


洋間の内壁仕上げ



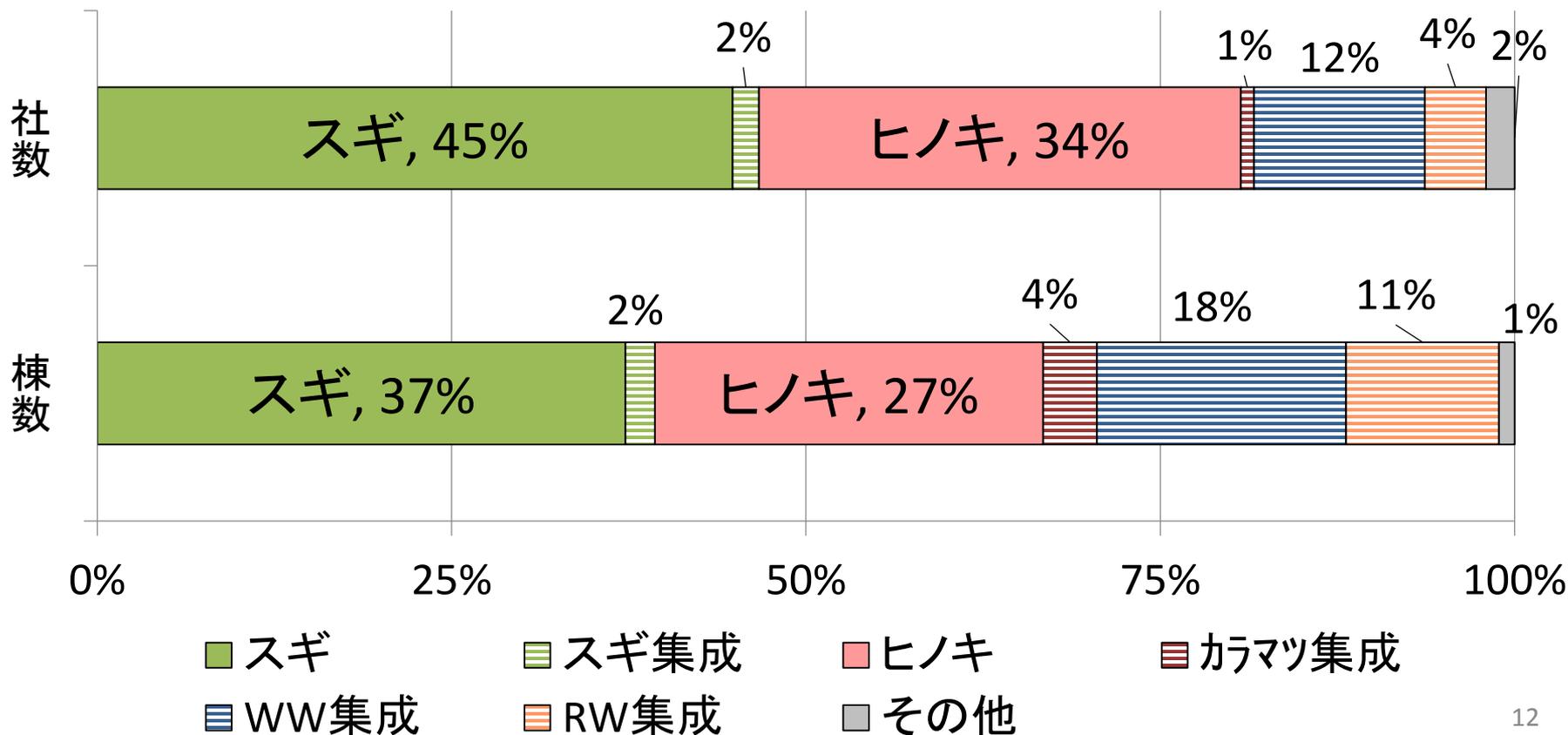
土台に使用される樹種

ヒノキが82%と圧倒的



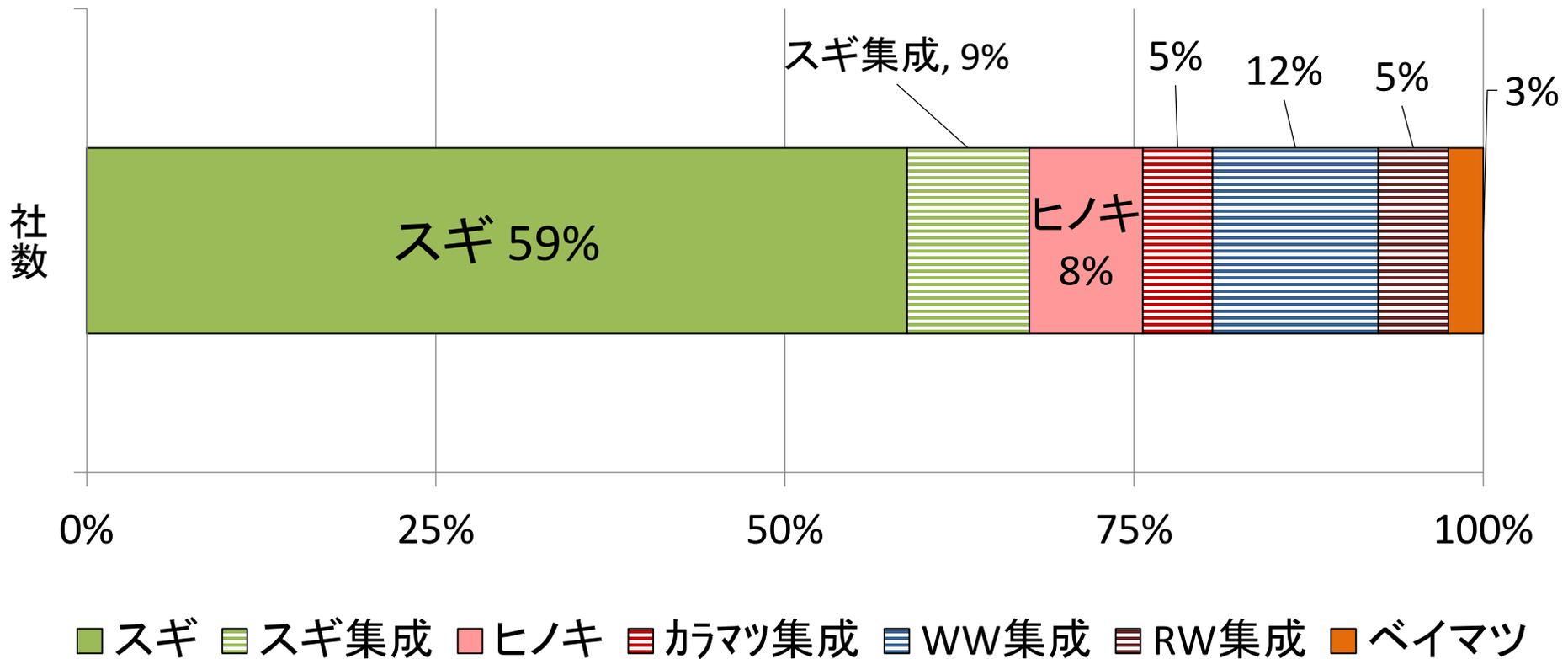
柱に使用される樹種（見え隠れ）

スギ・ヒノキの製材品で80%近くを占める
棟数換算だと64%となり、規模の大きい会社はWW・RWを使用



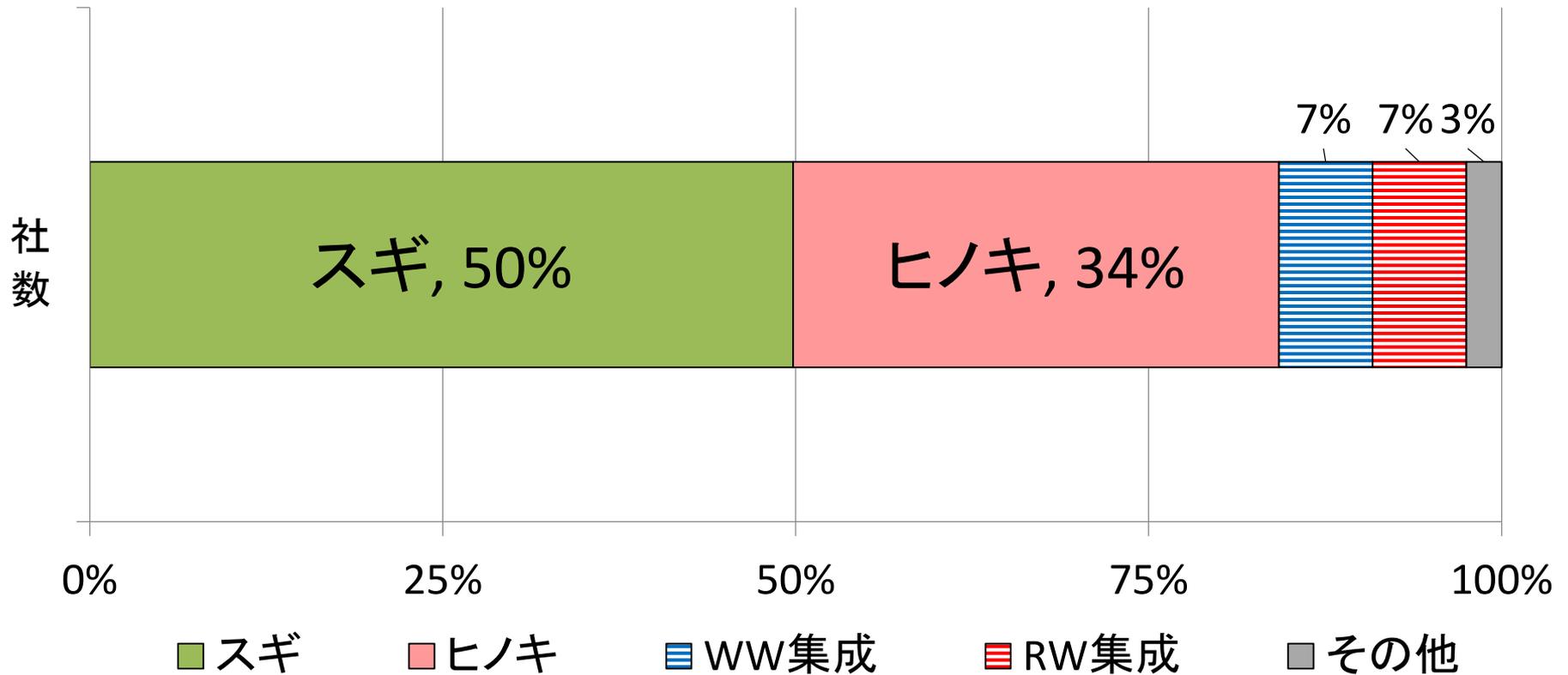
柱に使用される樹種(見え隠れ) 地域別集計

北海道・東北・北関東 (78社)



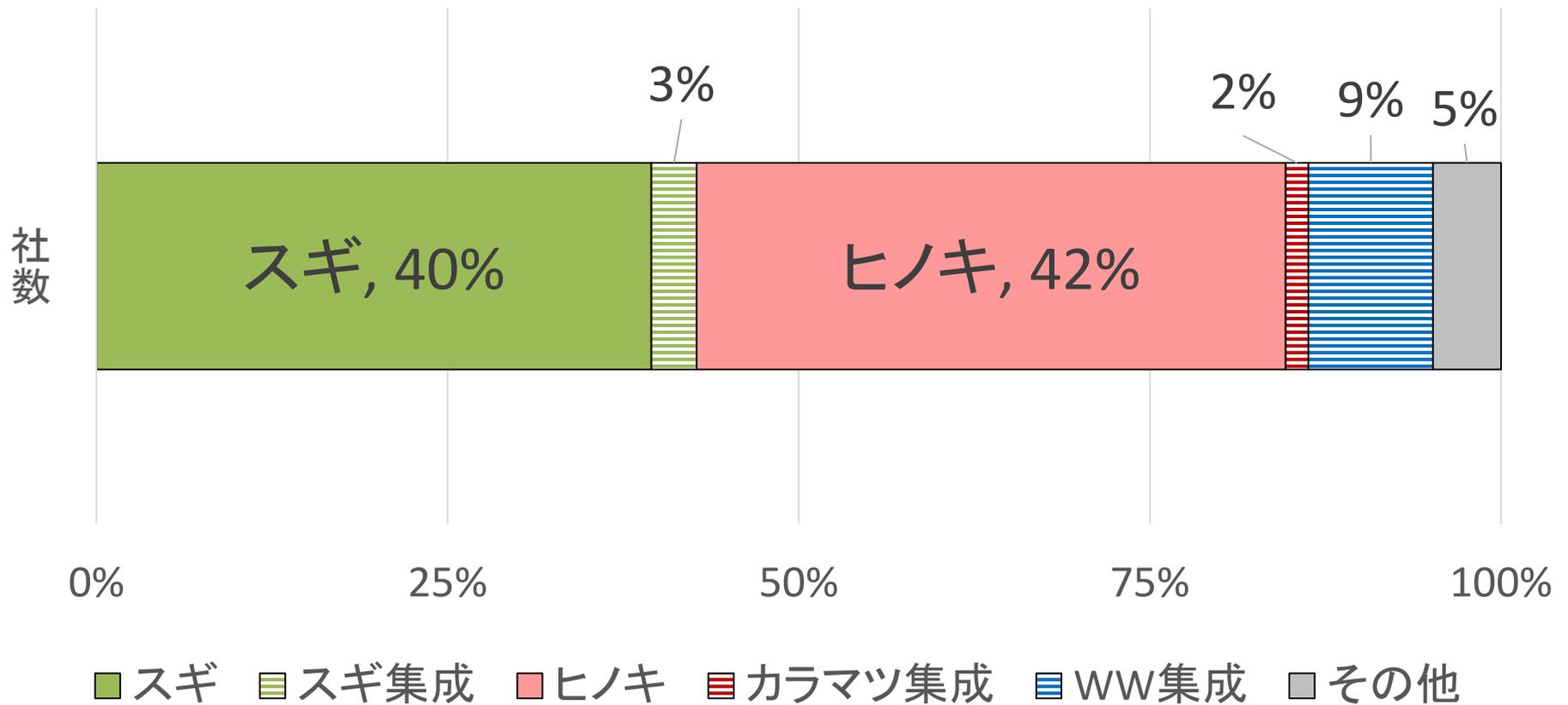
柱に使用される樹種(見え隠れ) 地域別集計

一都三県 (89社)



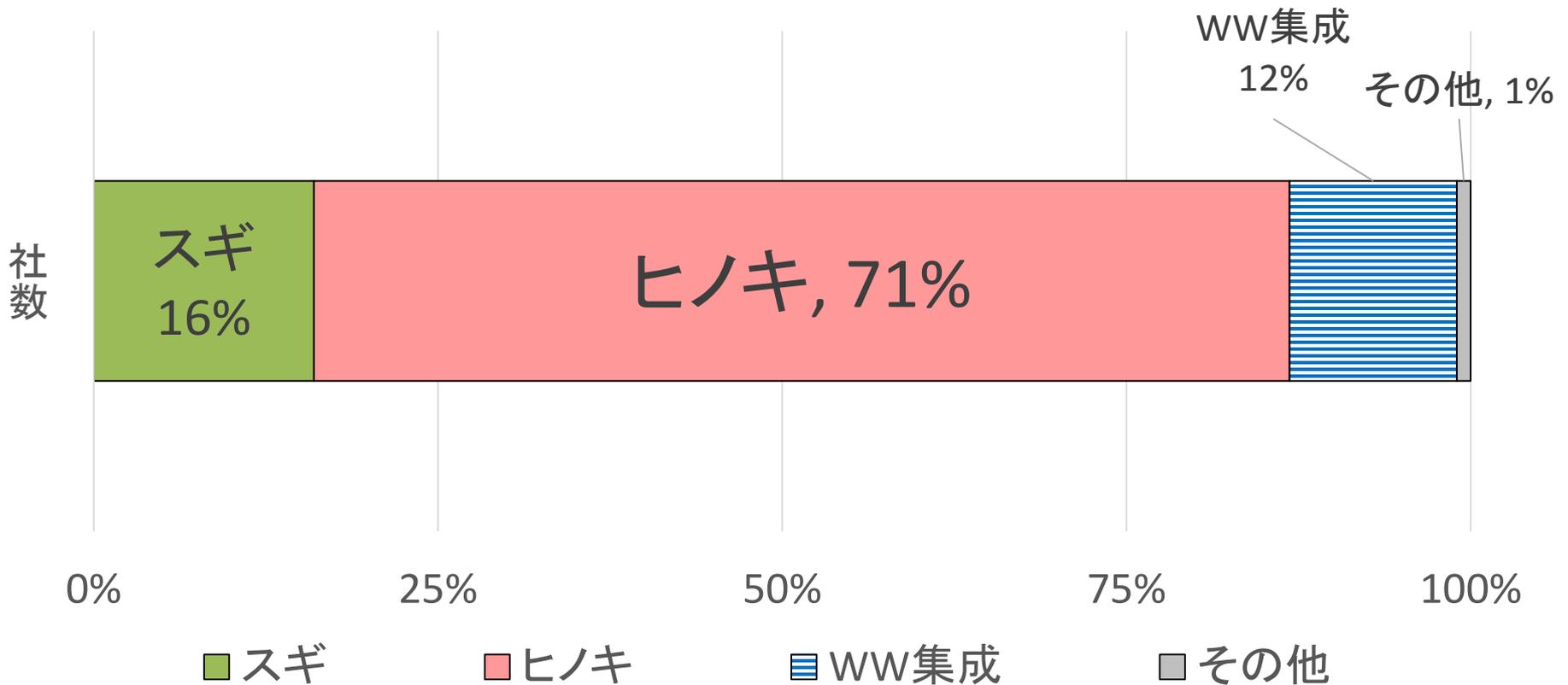
柱に使用される樹種(見え隠れ) 地域別集計

甲信越・北陸(69社)



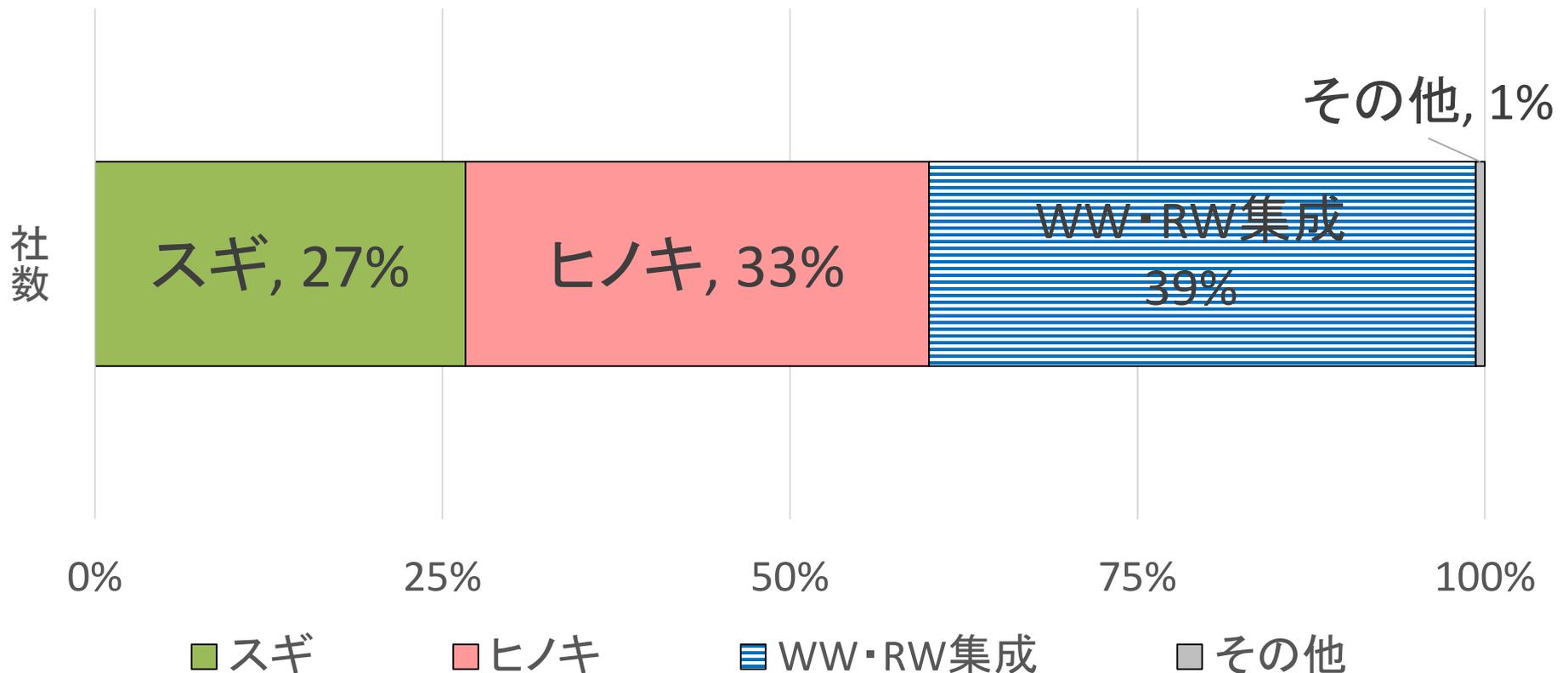
柱に使用される樹種(見え隠れ) 地域別集計

東海(110社)



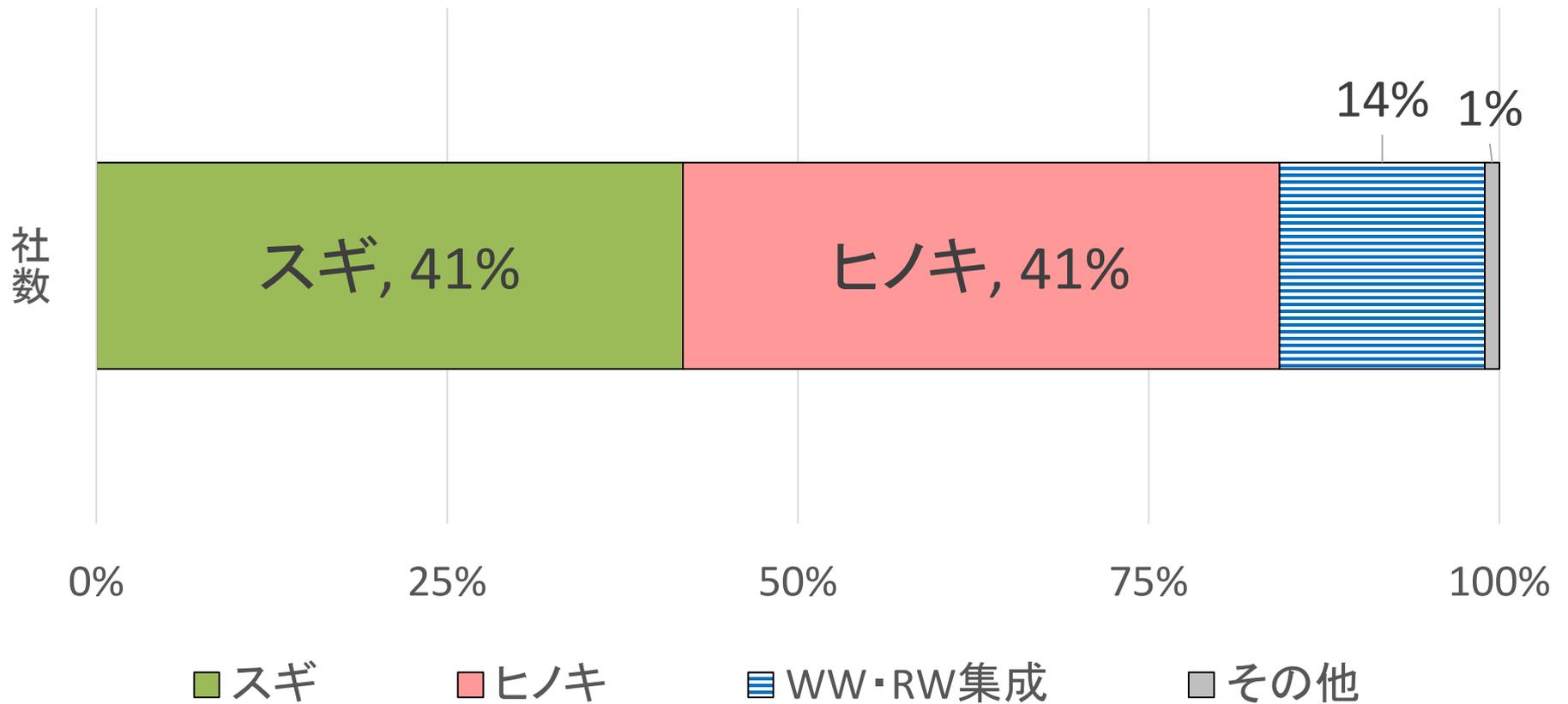
柱に使用される樹種(見え隠れ) 地域別集計

近畿(80社)



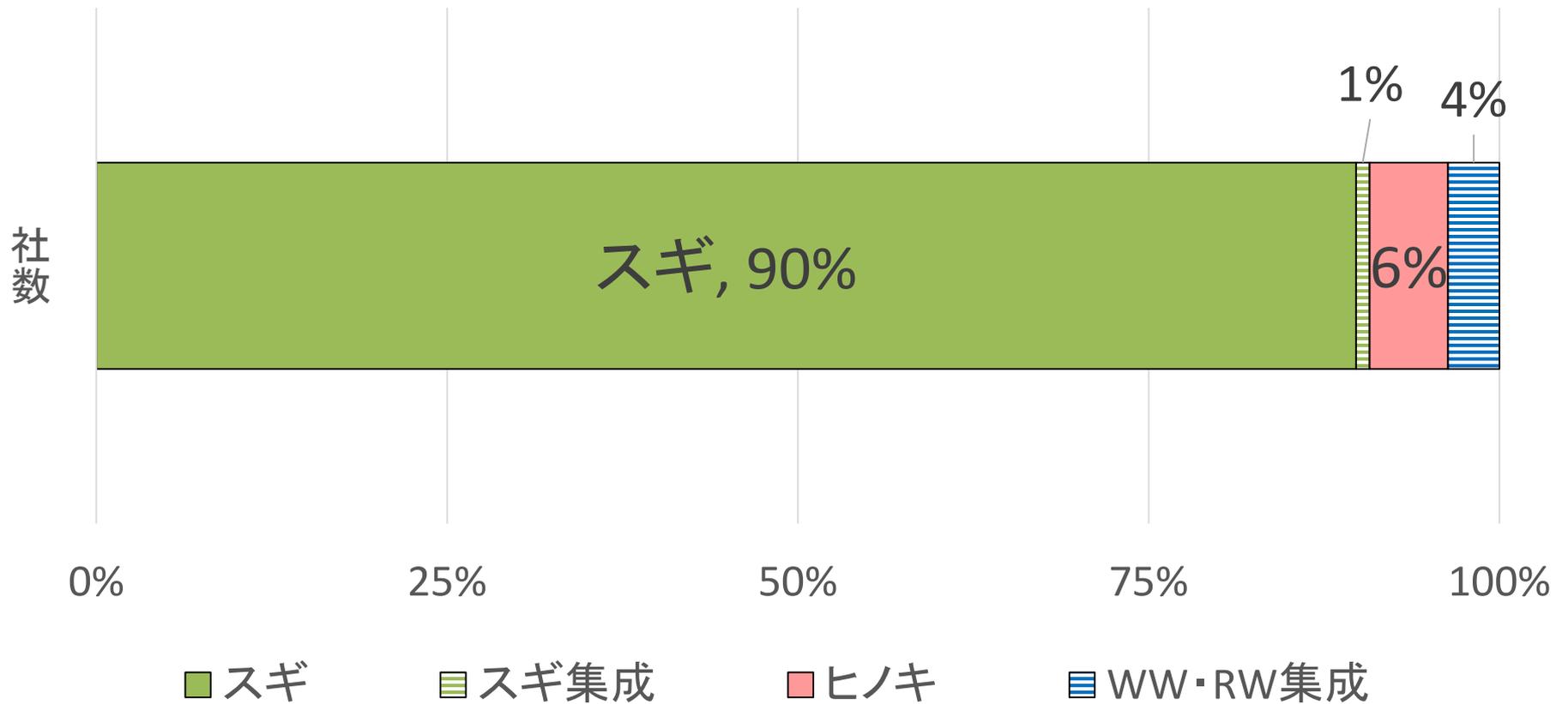
柱に使用される樹種(見え隠れ) 地域別集計

中国・四国 (75社)



柱に使用される樹種(見え隠れ) 地域別集計

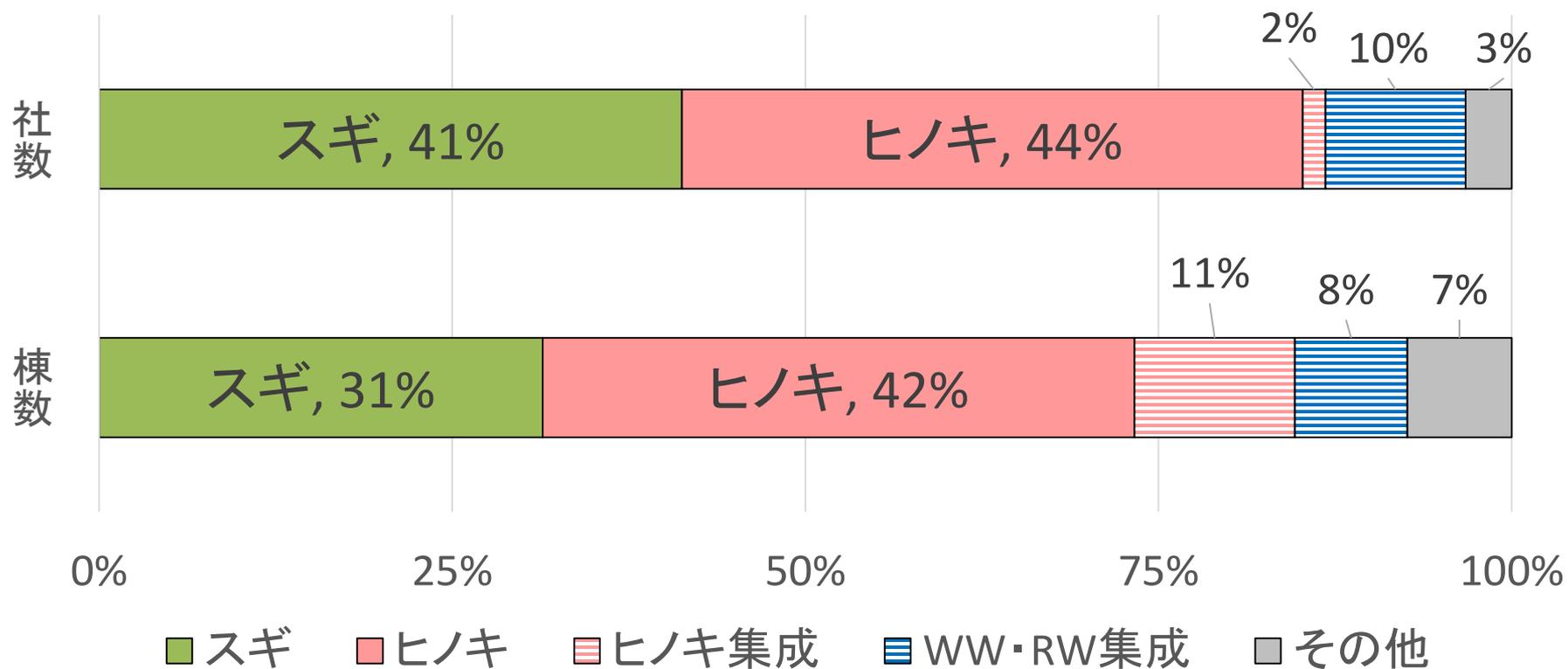
九州・沖縄(120社)



柱に使用される樹種（見えがかり）

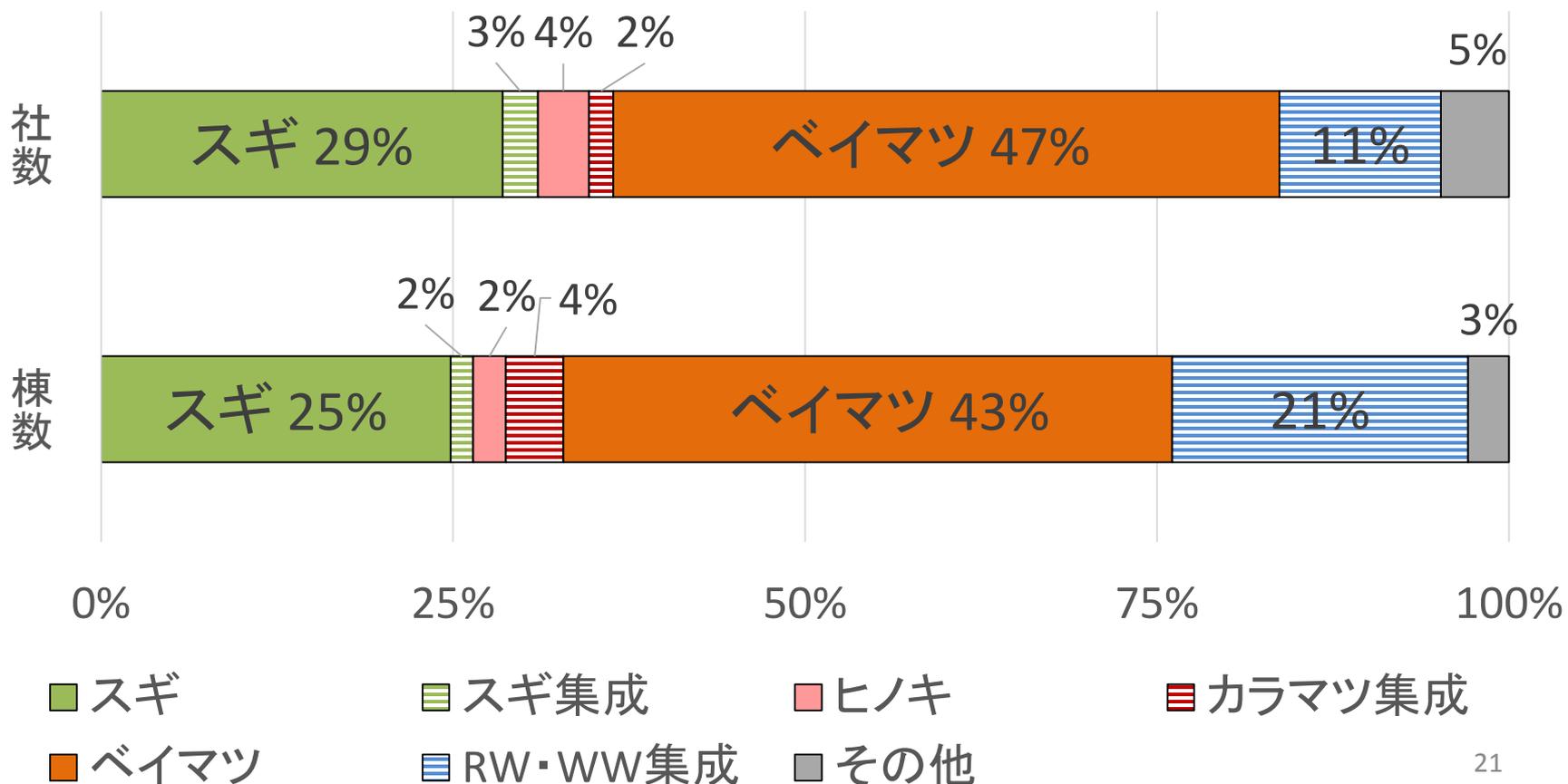
ヒノキが40%を超える

棟数換算だと「ヒノキ集成」が11%（化粧単板貼集成材？）



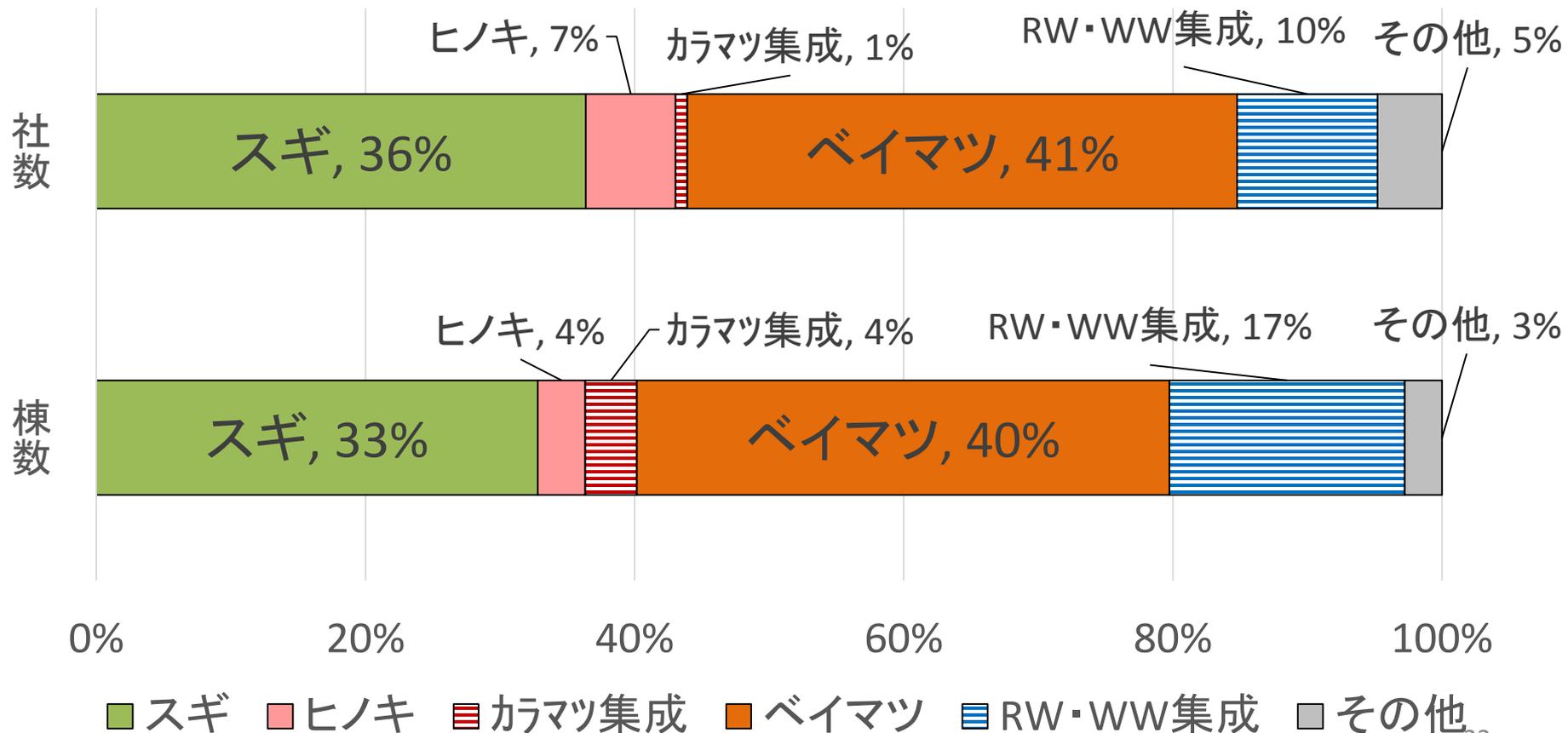
梁・桁に使用される樹種（見え隠れ）

スギ製材品が30%近いシェア
しかしベイマツがほぼ半数を占める



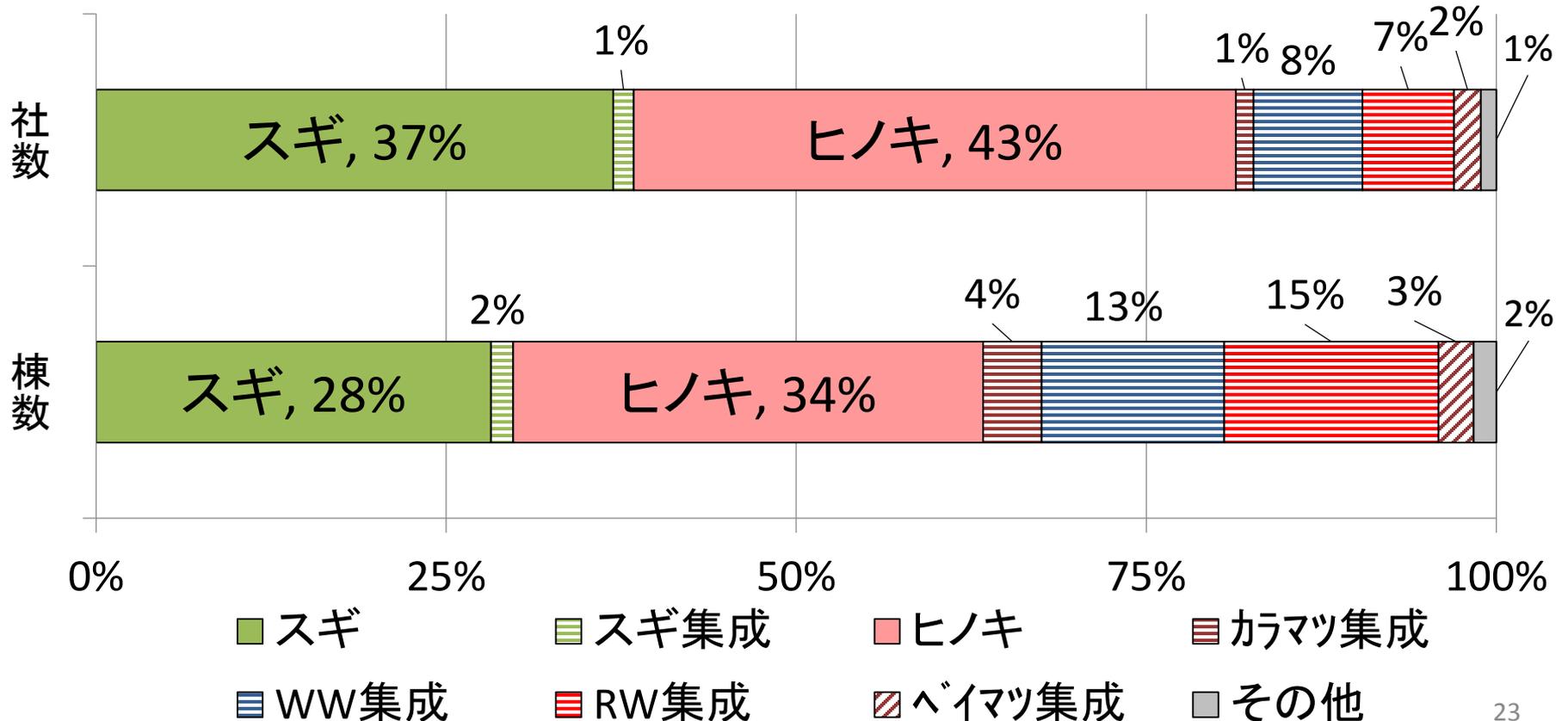
梁・桁に使用される樹種(見えがかり)

見え隠れと比較してスギが5%増。
意匠的な面での需要が伺える



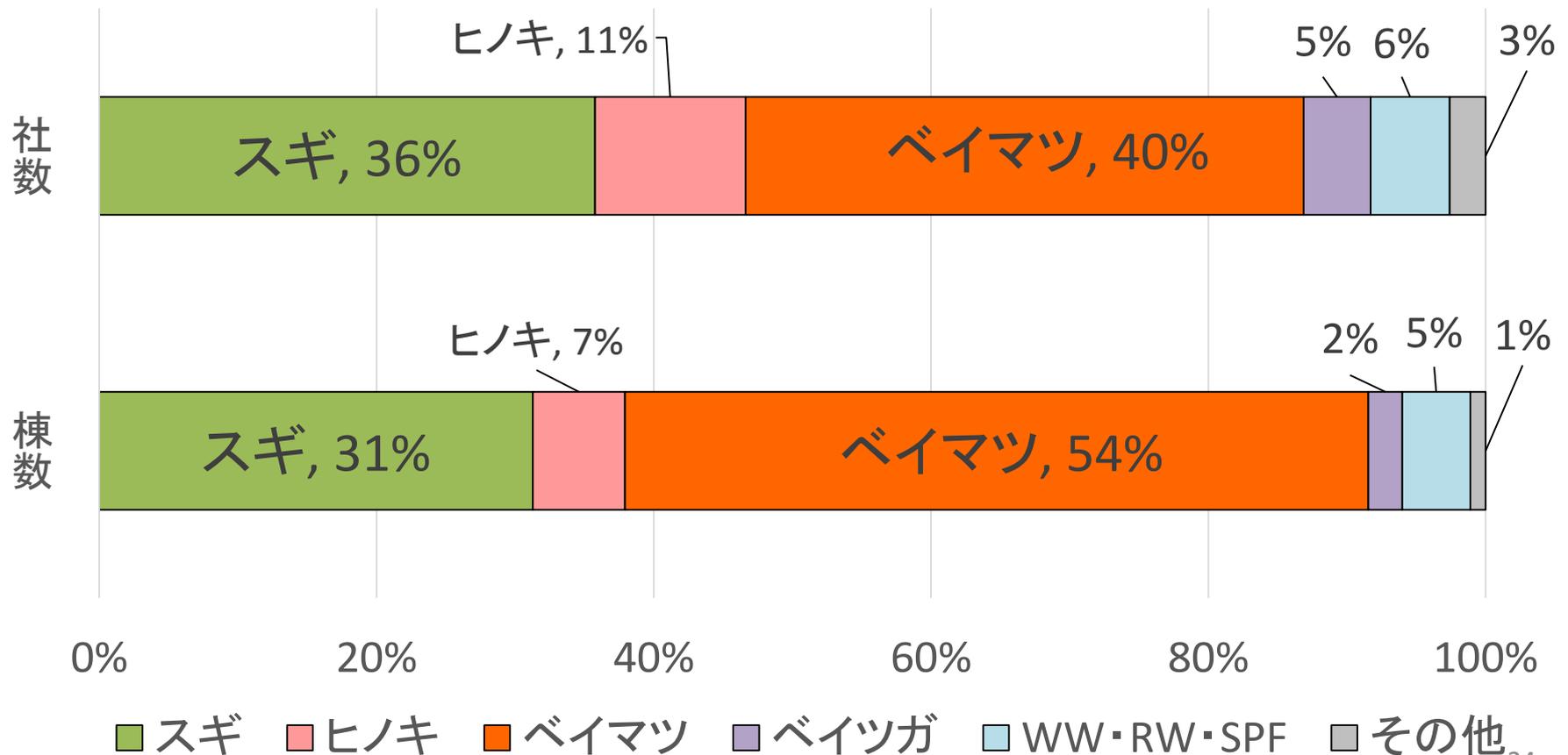
通し柱に使用される樹種（見え隠れ）

管柱と同様に、スギ・ヒノキの製材品が大半を占めるが、比較的大きな工務店はWW・RW集成材を使用する傾向



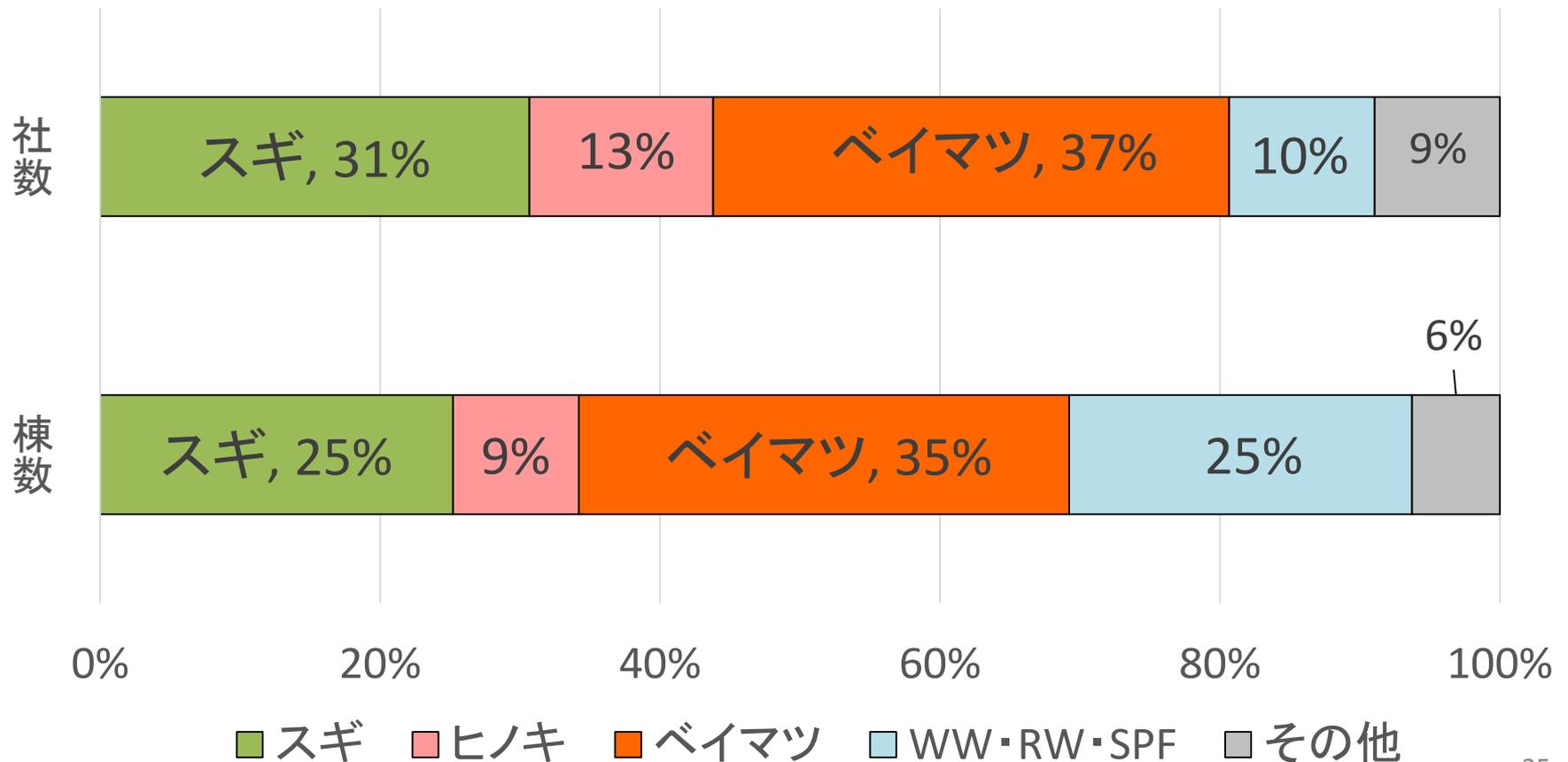
垂木に使用される樹種

社数ではスギとベイマツが拮抗するも
棟数ではベイマツが勝る



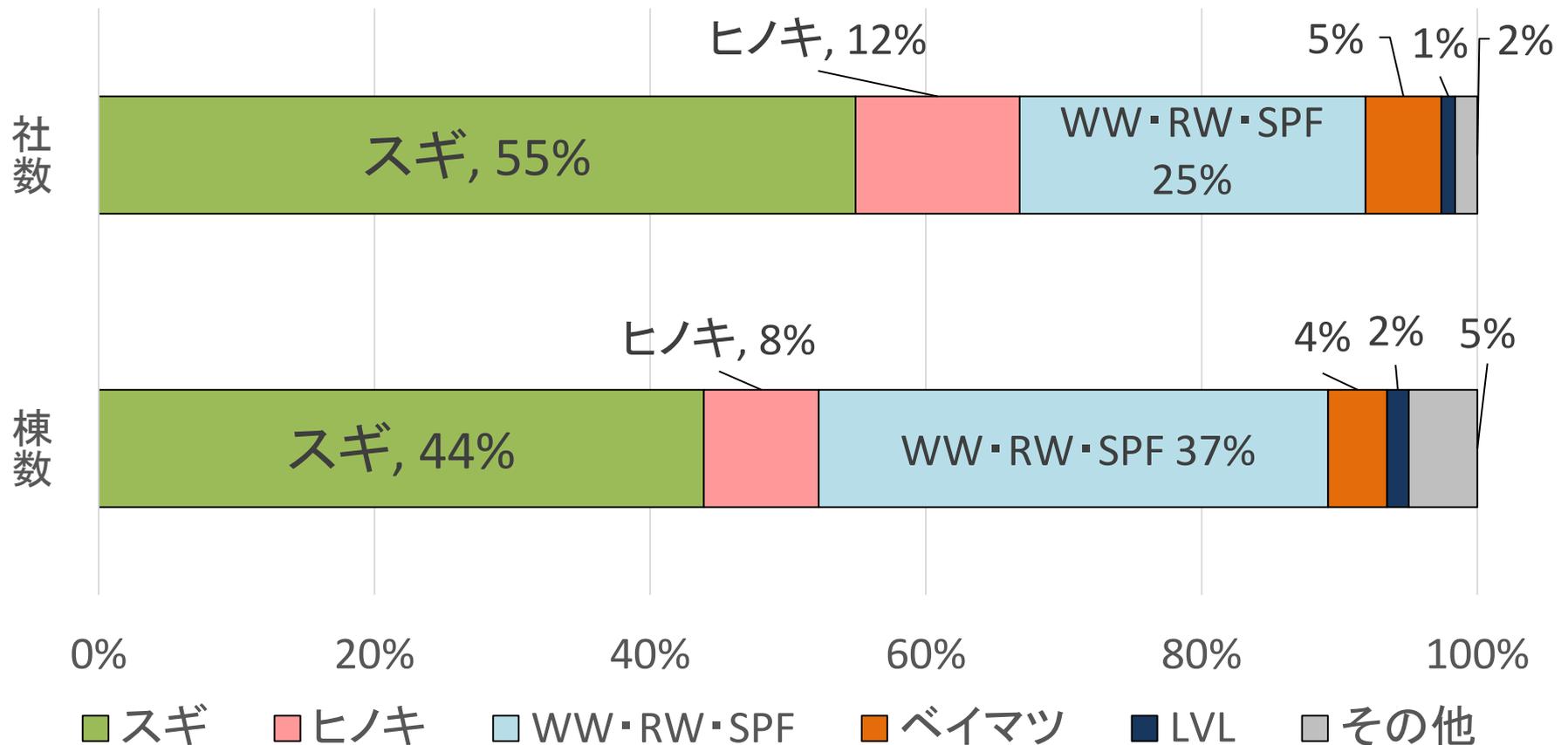
筋違に使用される樹種

主にベイマツとスギが使われている
棟数では国産材を食う形で欧州材の比率が伸びる



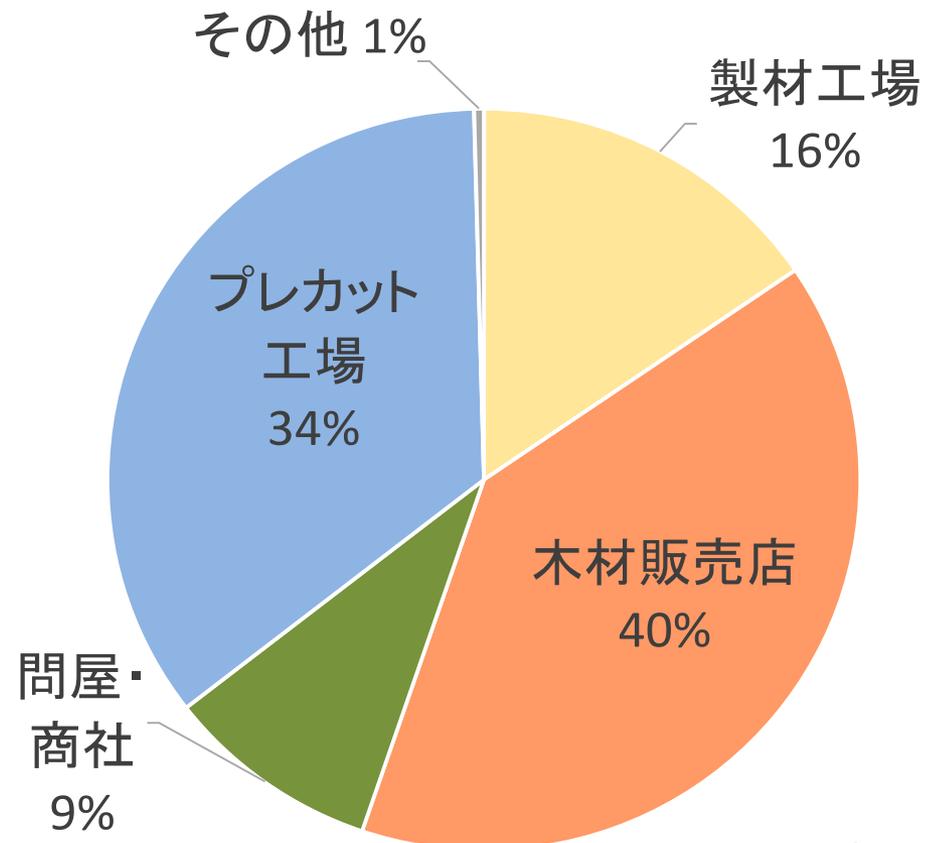
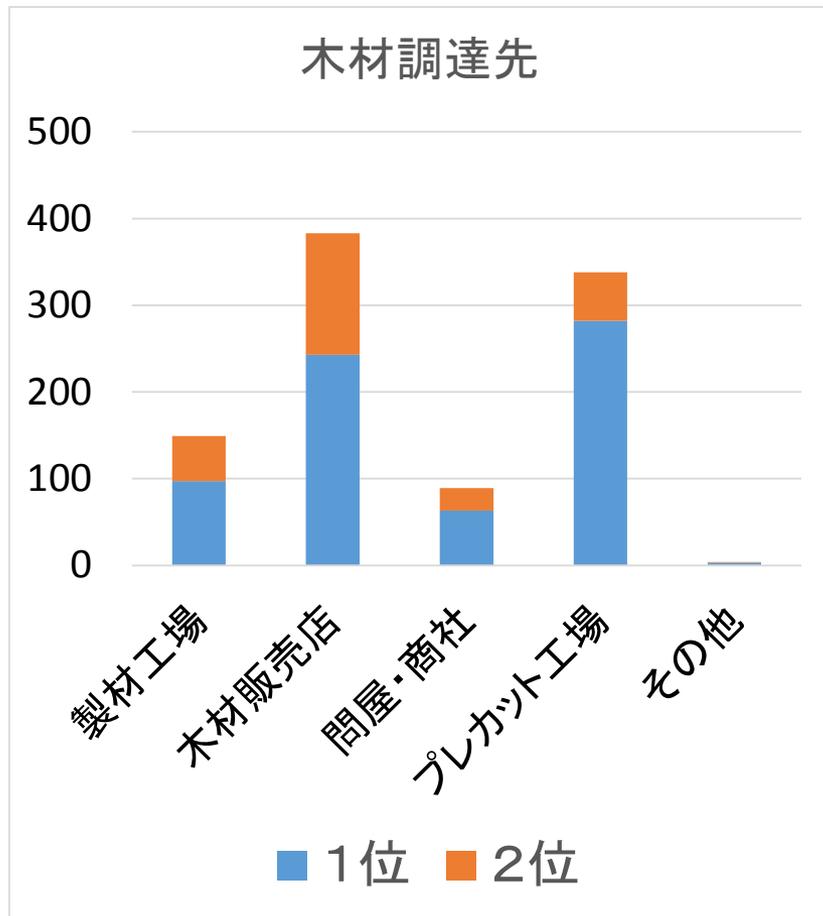
間柱に使用される樹種

垂木・筋違と比べるとスギの割合が高いが、棟数では欧州産材のシェアが高まる



木材の調達先

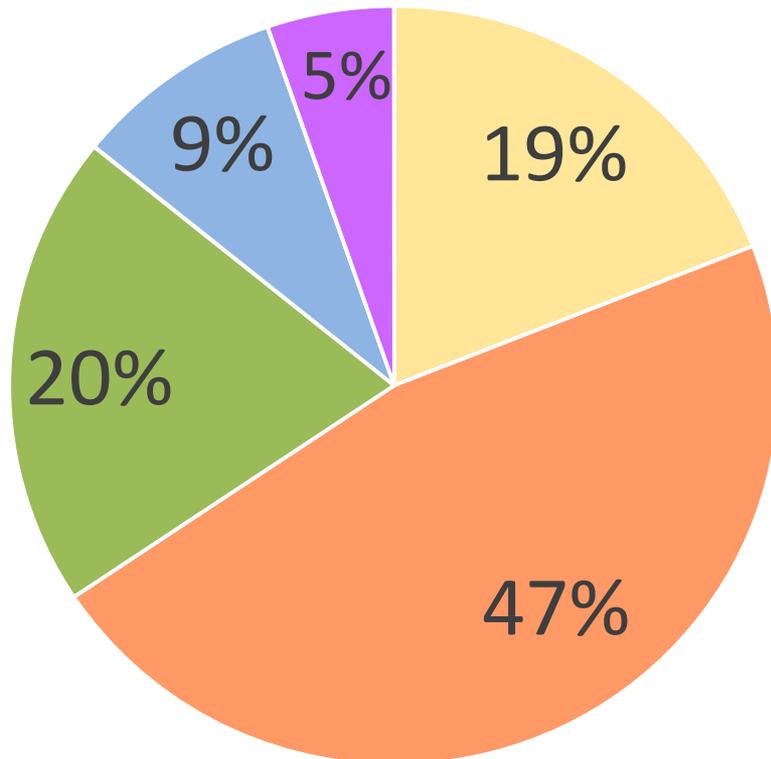
1位、2位まで含めると木材販売店がトップに。
流通における木材販売店の役割は大きい。



樹種の選択について

樹種選択に施主が介在するのは28%
施工会社としての判断が大半

貴社が供給する木造住宅の木材の選択は、
誰が行いますか

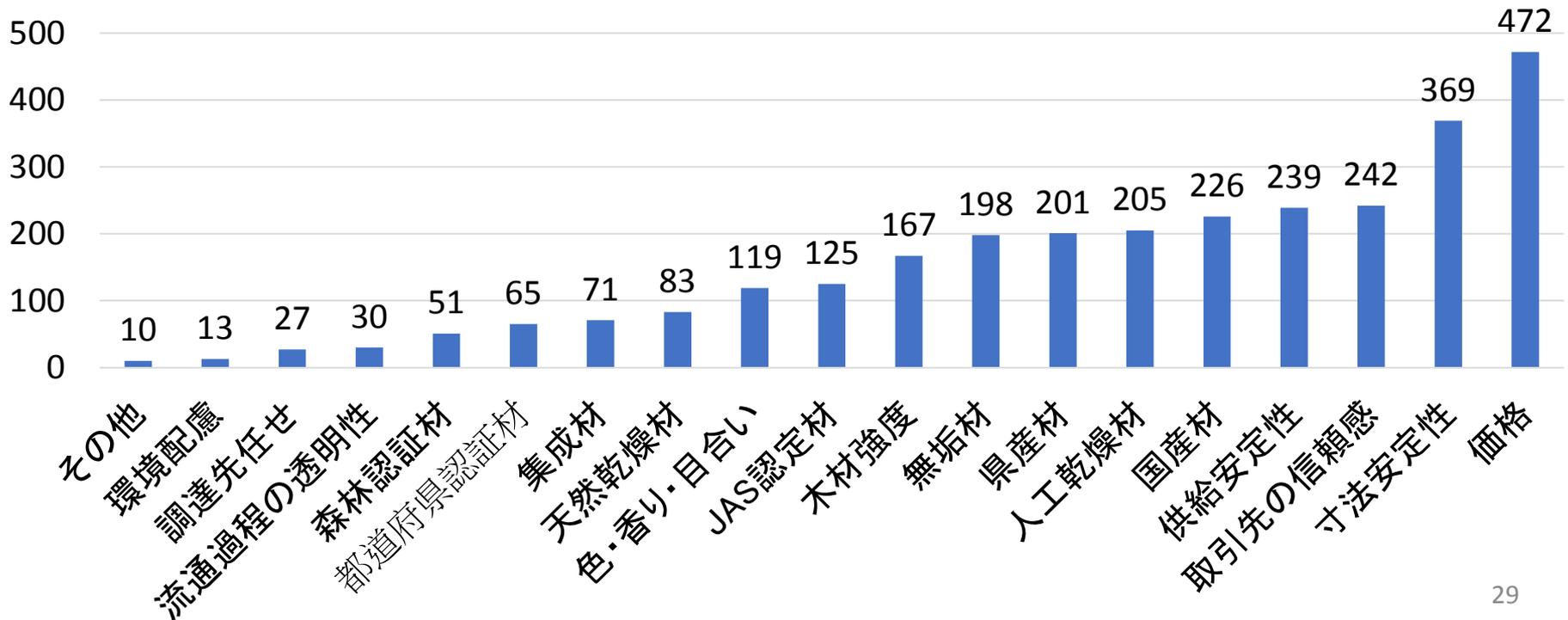


- 施主と設計士が相談して決める
- 施工者が木材調達先と相談して決める。
- 施工者が設計士と木材調達先と相談して決める。
- 施主、設計士、施工者、木材調達先の四者が相談して決める。
- その他

木材に何が求められているか(構造材)

約75%が価格を、60%が寸法安定性を重視している
取引先の信頼感も重要な要素

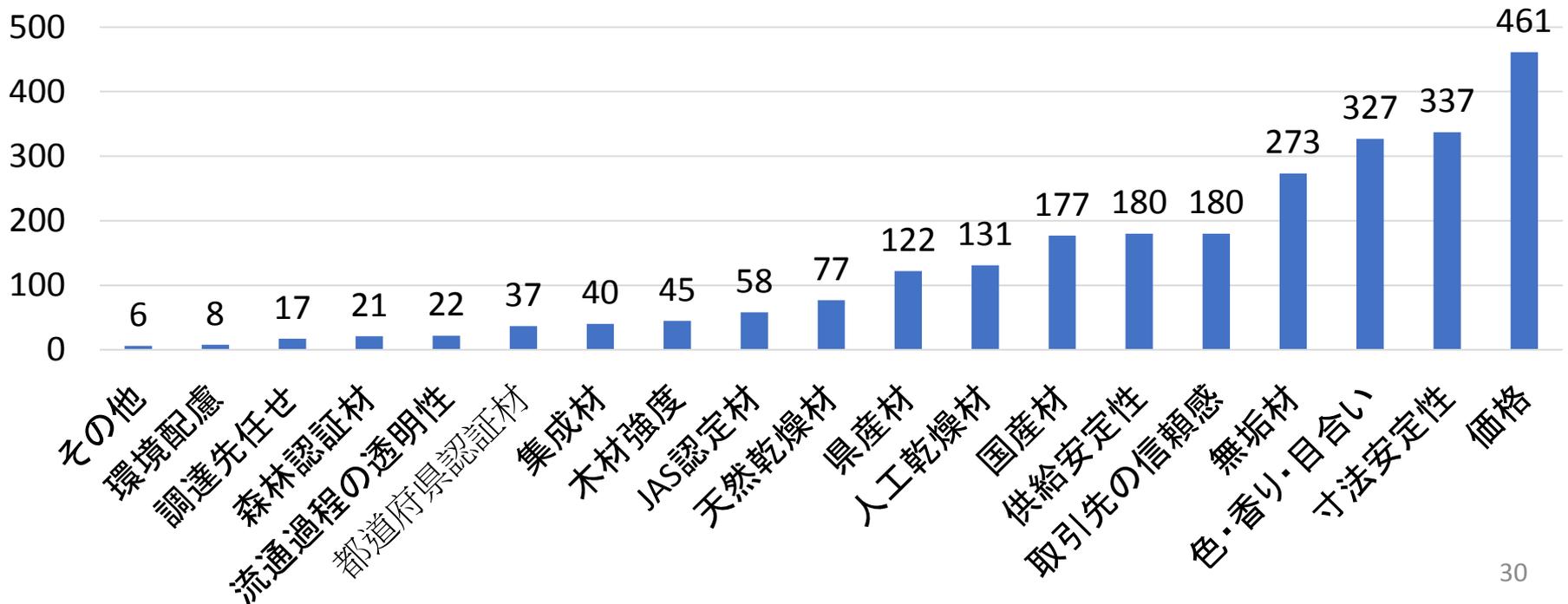
構造材・羽柄材を調達する際に意識する点
(621社・複数回答)



木材に何が求められているか(内装材)

内装材では価格、寸法安定性だけではなく、色・香り・目合いやムク材であることも重視される

内装に使用する木材を調達する際に意識する点
(621社・複数回答)

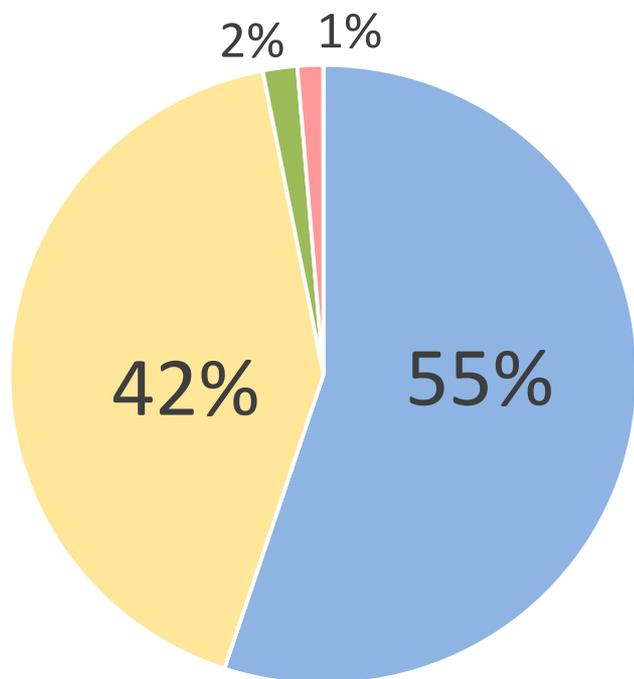


国産材の適宜適量の確保について

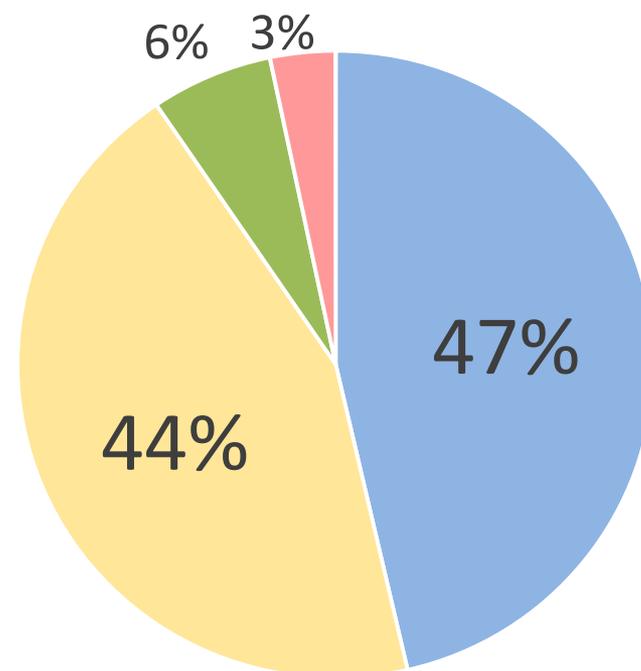
柱・梁桁ともに90%以上が適量入手可能と回答
工務店に対しての供給はほぼ満たされている

国産材の適宜適量の確保【柱】

国産材の適宜適量の確保【梁桁】



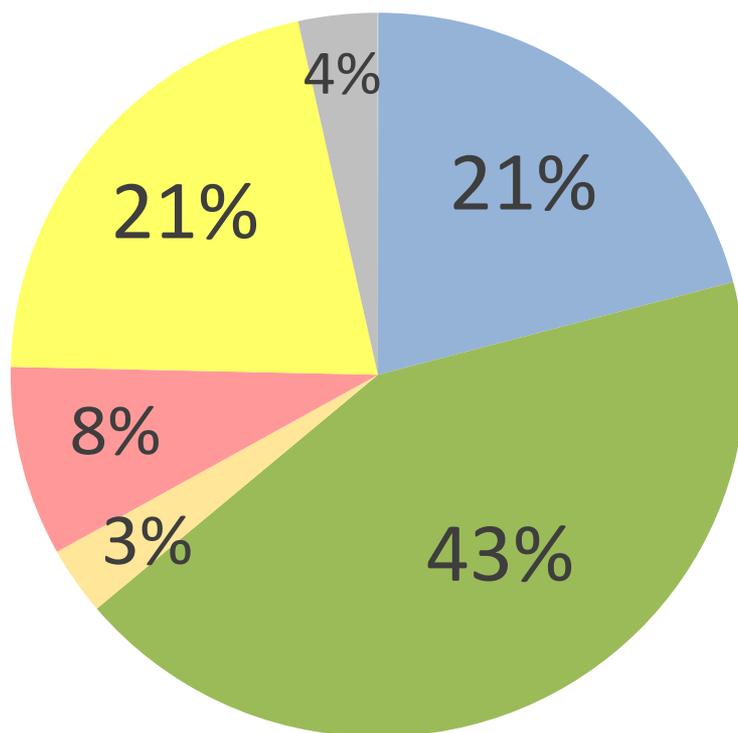
- 欲しいものはすぐに適量入手可能
- 特注物以外であれば、すぐに入手可能
- 適時適量の入手が困難である
- 欲しいものはすぐに入手できない



国産材の連携体制への取組み

既に取り組み済みが67%。「今後取り組みたい」も含めると90%を超え、非常に高い意欲が伺える

貴社では、森林所有者、製材工場、設計士などと連携して国産材による家づくりへの取り組みを行っていますか。



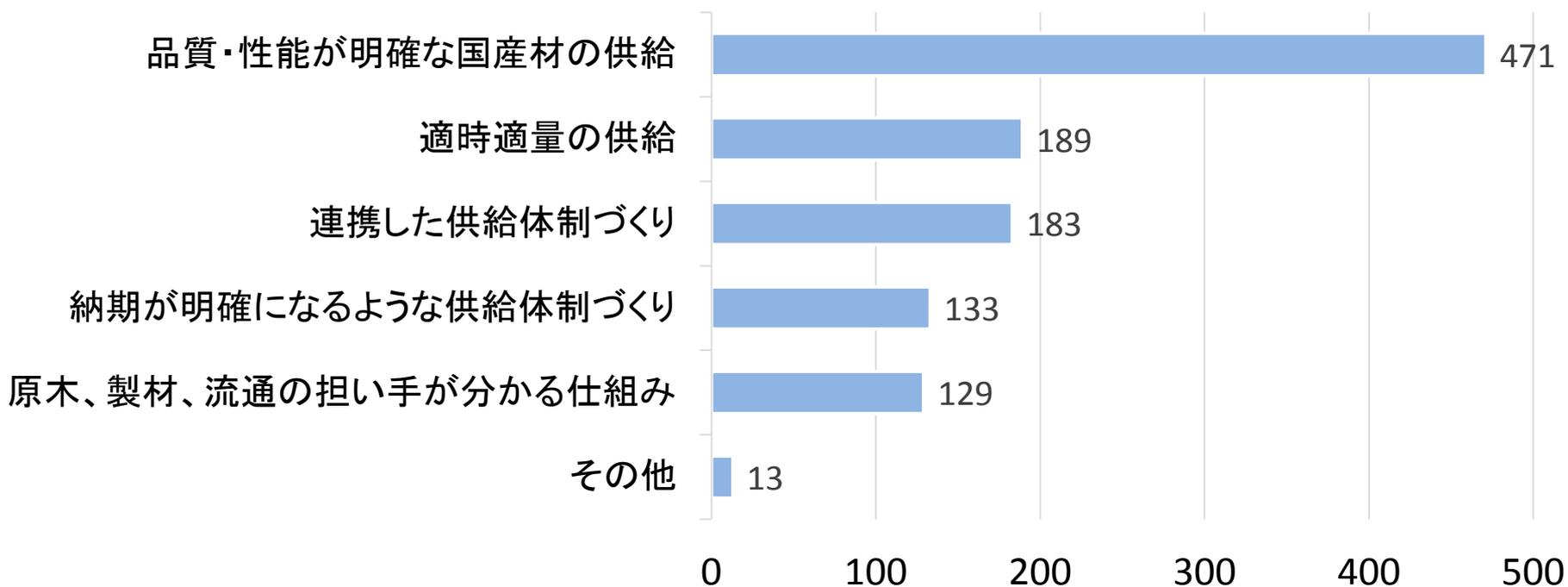
- 自社独自の取組みとして
- 地域型住宅グリーン化事業
- その他の取組み
- 今後、ぜひ取り組みたい
- 今後、できれば取り組みたい
- 興味がない

工務店が求める国産材とは

75%が「品質・性能が明確な国産材」を求めている

どのような国産材の供給を望みますか

(621社・複数回答)



自由記入欄

住宅用木材としての国産材に対するご意見があれば、自由に記載下さい。

121件のご意見を頂きました
頂いたご意見を「流通」「品質」「価格」「訴求」の
4つに分類、抜粋の上、皆様にご紹介します。

まとめ

- 大手・中堅の住宅会社に比べて、地域の中小工務店では、ほぼ全ての部材において非常に高い割合で国産材製材品が使われている。現在の国産材製材品の需要は地域工務店が牽引していると言っても過言ではない。
- しかし規模が大きめの地域工務店では輸入材を採用しているケースが多く見られた。

まとめ

- 地域工務店は、それぞれの事業規模に応じた国産材の供給ルートを既に整えているところが多い。その中で木材販売店は大きな役割を果たしている。
- 地域工務店は森林所有者、製材業者等との連携に非常に前向き。それに対してどのようなマッチングが図れるかが課題。
- 「価格」を満足しつつ、「寸法安定性」が確かで、「品質・性能が明確」な木材の供給が求められている。「取引先の信頼感」が調達条件の上位に挙がる中で、森林所有者、製材業者、木材販売店は今何をすべきだろうか。